
運命に抗う者達

純白の騎士王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命に抗う者達

【Nコード】

N4579I

【作者名】

純白の騎士王

【あらすじ】

世界の融合——滅び——全てを破壊する者——救うもの——
——ライダー達の新たなる戦いが始まる——

EPISODE：0（前書き）

ども、純白の騎士王です。別の小説とへいこうして書いています。
読みづらい所や設定が本編と違ふところがあるかもしれませんが温
かく見守っていただければ幸いです。

E P I S O D E :: 0

——— 平行世界

それぞれの世界に悪と戦うライダーがいた

それぞれが独立した全く違う別の世界

しかし

突如現れた強大な力によりいくつかの世界が融合を始める

誰も変えることのできない運命

しかし、その運命に抗い、未来を変えようとする者達がいた

——これはライダー達が紡ぐ未来への物語

ライダー達の、新しい戦いが始まる……………

EPISODE：0（後書き）

これからはどんどんライダーが出てくる予定です。しかし全ての平成ライダーが出てくるわけではありません。

EPISODE..1 動き出す運命（前書き）

つい勢いで書いてしまいました。次からはもう少し考えてから投稿しようと思います。

EPISODE..1 動き出す運命

——とある路地裏。

「うっうわあああああ！」

仕事の休憩をしていた男が、突然謎の生物に襲われた。それは人のようではない、古代より蘇った種族——グロンギであった。男は無我夢中で逃げる。しかし、途中でつまずき追い詰められる。恐怖で立つことすらできない。グロンギが襲いかかろうとしたその時——

ブウン！！

グロンギに向かってバイクが突っ込み、そのままグロンギを路地裏から吹き飛ばす。

「早く逃げてください！」

バイク——ビートチェイサーに乗った男が、襲われかけていた男に言う。男は逃げていった。

P———

ビートチェイサーについている通信機が鳴る。『五代、聞こえるか？』

「一条さん、グロンギを発見しました。どこか近くに人がいない場所は？」

『そこから東に行ったところに海がある。その周辺は人がいない。岩場ばかりだ。』

「了解。」

ビートチェイサーに乗っている男——五代雄介は、腹の辺りに手をかざす。すると、ベルトのようなものが腹の辺りに出てくる。

「——変身！！」

雄介の体が変化する。

そこには赤い眼をした、赤色のライダーがいた。

——クウガ

古代のリント（人間）の戦士。周囲の物体を武器に変えて、フォームチェンジにより様々な戦いをするライダーである。赤いクウガ——マイティフォームは、格闘戦が得意なクウガの基本フォームである。

ビートチェイサーを走らせる。そのままグロンギに体当たりし、グロンギを海へ連れて行く。

——海

人が一人もいない、とても静かな場所にクウガが乗ったビートチェイサーがグロンギごと走ってくる。

キキイイイ！

ビートチェイサーを止める。

止まった時の衝撃で、グロンギが吹き飛び地面に叩きつけられる。

「ゴガア!!」

ビートチェイサーから降り体に力を込める。すると……

バチッバチバチ!!

クウガの体に電気がはしる。体のあちこちに金色のラインがはいり、ベルトのバックル部分が金色になり、右足首に金色のプロテクターのようなものが装着される。

マイティフォームの強化版、ライジングマイティフォームである。

右足に力を込め、グロンギに向かって走り出す。

「ハアアアアア!!」

飛んで一回転し、グロンギに跳び蹴りを放つ。

「オリヤアア!!」

ドゴオオオン

「グ……ギ……グガアア！」

ドガ
アアアアアア
アン！！！！！！

ライジングマイティフォームの必殺技、ライジングマイティキックは、威力がとても強く、町中でやると爆発により甚大な被害がでるため、人がいない、爆発が起きても安全な場所まで移動し、グロウギを倒さなければいけない。

敵を倒したのを確認してから変身をとく。

報告をしようとビートチェイサーに近づき、通信機のボタンを押そうとしたとき、突然黒いオーラのようなものが雄介の目の前に現れた。

「…なんだ？これ…。」

そう言って近づいた瞬間、黒いオーラから一人の男が現れた。

「やあ、初めまして。私は鳴滝というものだ。単刀直入に言う。こ

の世界は消えてなくなる。世界の融合に巻き込まれて。そして、全ての破壊者、ディケイドによって破壊される。この世界を守りたかったらほかのライダーを倒すんだ。」

そう言うのと、雄介は黒いオーラに包まれた。

「うわあああああ!!」

黒いオーラが消える。そこには、雄介の姿はなかった……………。

——クウガの世界とは別の世界。

人類の進化系、オルフェノクが出現し、人々は次々とオルフェノクに襲われた。——とある町中

そこでは一体のオルフェノクが暴れ回っていた。人々は逃げまどい、何人もの人間が襲われた。

そこに突然、バイクに乗って現れた一人の男がいた。男は、トランクからベルトを取り出し、腰に巻いた。そして、トランクから携帯

電話を取り出し、ボタンを押す。

ピッ、ポッ、パッ、

5を3回押し、エンターキーを押す。

s t a n d i n g b y

「変身!!」

バイクの男——乾巧がそう言いながら、ベルトのバックル部分に携帯電話をさし、90度倒す。

c o m p l e t e !

赤いラインが体に走り、発光する。光がやむ。そこには赤いラインの入った鎧のような物を纏ったライダー、555（ファイズ）がいた。

555は、バイクーオートバジンのハンドルを抜き出し、オルフェノクに向かって走り出す。オルフェノクも、555に気づき、攻撃を始める。

オルフェノクの一撃をよけて一撃与え、さらに振り向きざまにもう一撃加える。

「グアアア！」

オルフェノクは衝撃で吹き飛ばされた。

555はベルトの右側についている555ポインターを取り、バックルの中心にあるミッションメモリーをポインターにセットして、右足につけた。

バックルの携帯電話を開き、エンターキーを押す。

e x c e e d c h a r g e

「はあ!!」

555はジャンプし、一回転する。両足をそろえ足のポインターをオルフェノクに向ける。オルフェノクに赤い円錐形のマークがつく。もう一回転して、跳び蹴りをオルフェノクにむかって放ち、マークと一緒にオルフェノクを突き抜ける。555の必殺技、クリムゾンスマッシュである。

「グアアアア！」オルフェノクは青い炎に包まれ爆発した。爆発したあとには、555のマークが浮かんでいた。

変身を解除し、帰宅しようとする、突然黒いオーラが現れた。

「…？なんだ？」

すると、そこから一人の男が出てきた。

「やあ、初めまして。私は鳴滝と言うものだ。単刀直入に言う。このままでは世界が滅ぶ。ディケイドによって破壊される。君は他のライダー達を倒さなければいけない。」

「ちょっと待ってくれ。なんだ？世界が滅ぶ？ディケイド？他のライダー達って？意味が分からない。」

「説明している暇はない。私についてきなさい。」

「いや、ちょっと待ってくれてうあああ!？」巧は黒いオーラに包まれて消えた……

——別な平行世界

「変身!」

ベルトの赤いボタンを押し、パスをバックルにかざす。

s w o r d f o r m

良太郎の周りにレールが現れる。赤いパーツが体に装着され、デメンカメンが顔につく。

「オレ、参上!」

変身を終え、赤いライダー、電王が現れる。

そう、ここは電王の世界。

この世界も、また……………。

EPISODE..1 動き出す運命（後書き）

多分、なんだこれ？と思っている方も多いと思います。僕もです。カオスです。

表現するのが下手なので、技が微妙な感じになっているかもしれない。あやふやな記憶を頼りに書いているので、変なところもたくさんあると思います。あと、主人公達の話し方とかも変だったかもしれない。

反省点だらけです……。ではまた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4579i/>

運命に抗う者達

2011年10月9日18時45分発行